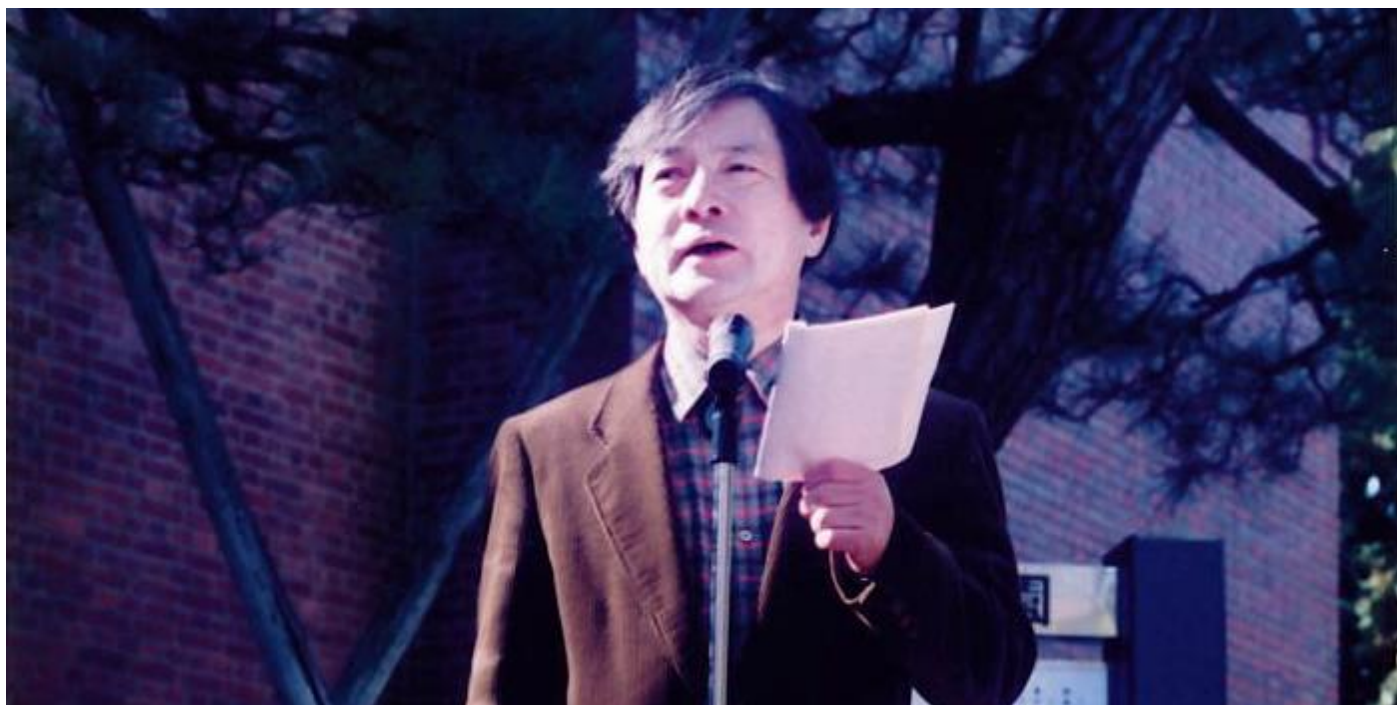
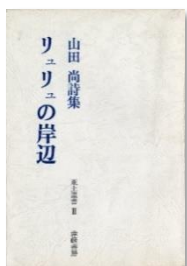


弘前市立郷土文学館 スポット企画展

追悼・山田尚展



一戸謙三詩碑建立一周年記念「献花の集い」にて（平成10年11月3日）



弘前市立郷土文学館

2024年

【開館時間】 9:00～17:00（入館は16:30まで）

【観覧料】 一般100円 小・中学生50円

（弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、
市内の留学生、市内外の障がいのある方、
ひろさき多子家族応援パスポートを持参の方は無料）

〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町2-1 追手門広場内

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

9月25日

～12月9日

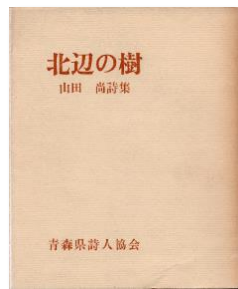
山田尚は、昭和10年（1935年）大鰐町に生まれ、県立弘前高等学校時代に詩を志した。「荒地」派の詩人たちの影響のもと、「四季」派的抒情を否定する戦後詩の土壌を詩業の出発点とした。昭和40年、第一詩集『北辺の樹』を刊行し、泉谷明と詩誌『亜土』を創刊。以後、青森県詩壇をリードする詩人の一人となった。また、先達詩人らの研究・顕彰にも取り組み、『まるめろ論-高木恭造の青春』（昭和54年）刊行、『高木恭造詩文集』全3巻（昭和58年、平成2年）編纂、そして、高木恭造、一戸謙三、今官一の文学碑建立などにも尽力した。

本展は、令和6年1月に逝去した山田尚を追悼し、その詩業を中心に文学的業績を概観するものである。



山田 尚

詩集



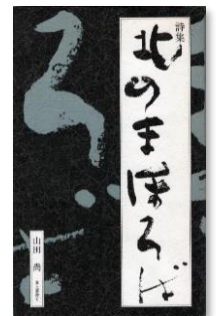
『北辺の樹』
青森県詩人協会
昭和40年3月20日



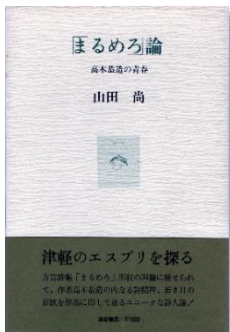
『リュリュの岸辺』
津軽書房
昭和48年2月20日



『冬の輪』
津軽書房
昭和58年11月20日



『北のまほろば』
「亜土」詩会
平成7年12月30日



『まるめろ論 高木恭造の青春』
津軽書房
昭和54年6月30日



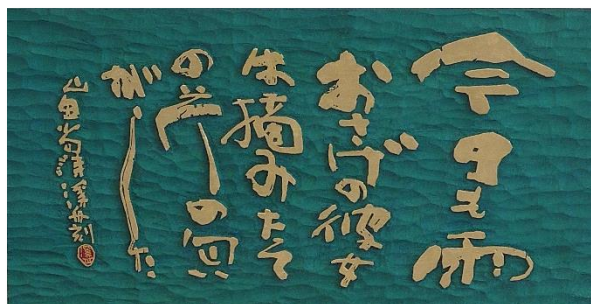
『高木恭造詩文集 全三巻』
津軽書房
第一巻 昭和58年10月10日
第二巻 昭和58年11月30日
第三巻 平成2年10月30日



『一戸謙三・詩の軌跡』
弘前ペンクラブ 編
平成9年11月3日

評論・研究

遺品



刻書
山田尚・詩 工藤溪舟・刻
「今日も雨おさげの彼女は摘みたての 芹の匂いがした」
（「驟雨」〈『冬の輪』所収〉より）